

## 環境ビジョン 1

### 多様な生態系と共生するまち

わたしたちは、その地域の風土や心身ともに健康的な暮らしを営むために恩恵を与えてくれる多様な自然生態系の一員として存在しています。しかし、わたしたち人間の勝手な自然破壊による影響は、今や地球上のあらゆる生物の多様性だけにとどまらず、生命の危機というところにまで議論が及ぶようになりました。

多様な生態系を育み、二酸化炭素の吸収や水源涵養などの公益的機能としてだけでなく、地域の文化や風土、産業発展の基礎として、あらゆる生命の源である自然環境を保護し、維持・保全しなければならないという意識は世界中で高まり、具体的な活動や研究、開発等が進められています。

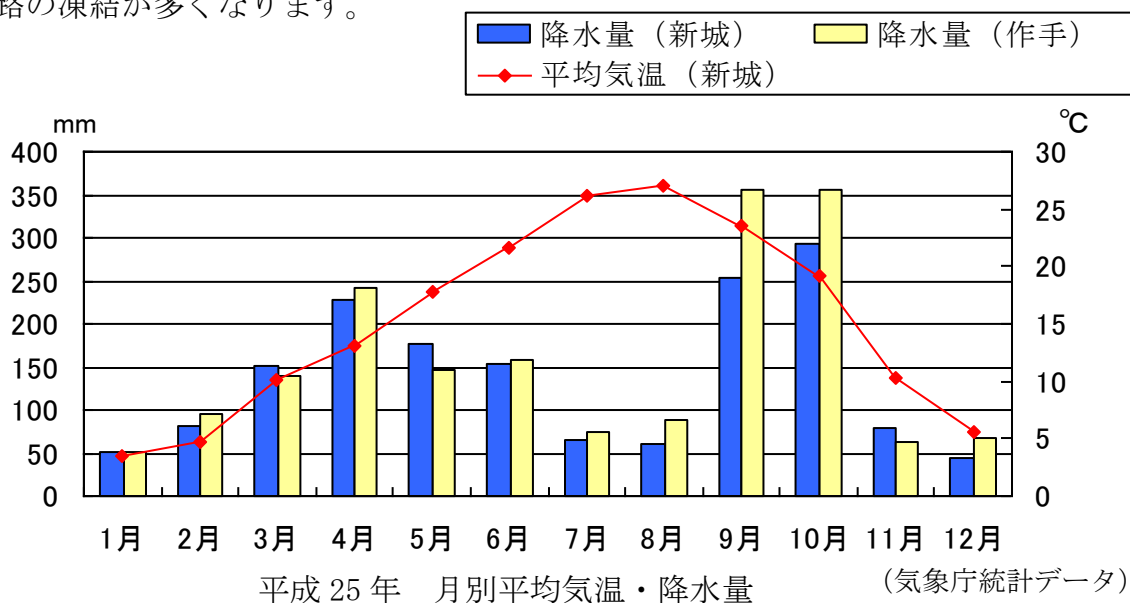
本市には、幸いにもまだ、多種多様な野生生物が生息する豊かな自然環境が市全域にわたり存在しています。

わたしたちは、自然環境を大切にすることを育み、多様な生態系を維持・保全しながら、地域資源を有効に活用する『多様な生態系と共生するまち』を創造し、将来世代に引き継いでいきます。

## 【自然環境の把握】

### 1 気候

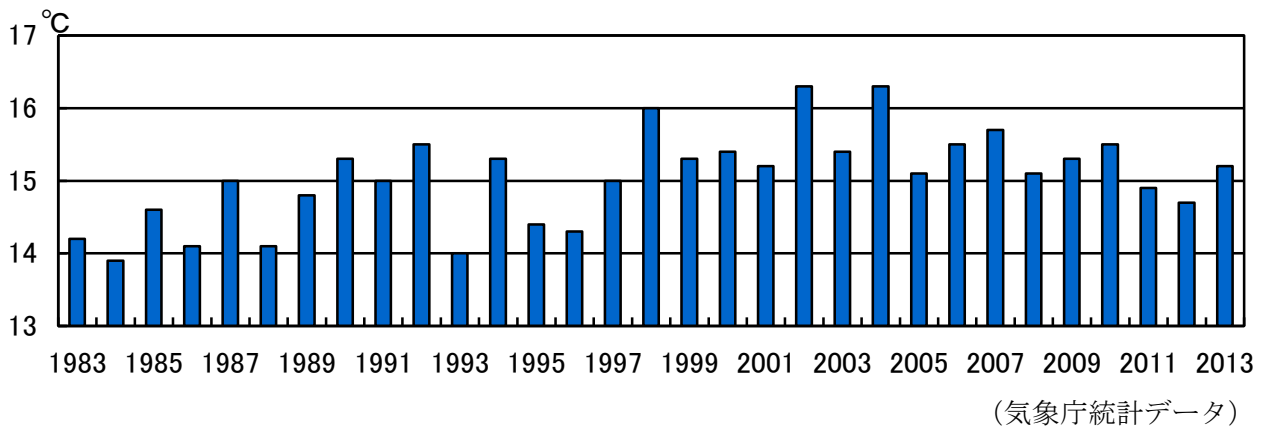
本市は、新城・鳳来地区と作手地区との市域高低差が約500mあります。豊川沿いに位置する新城・鳳来地区の年平均気温は約15℃と比較的暖かな地域ですが、作手地区になると約12℃となり、市域内で2～3℃の気温差になります。また、総雨量も気温と同様に市域によって差があります。降雪は、豊川沿いに位置する地域では毎年12月から3月までに数回記録されますが、積雪はほとんどありません。作手地区になると、冬場は積雪や道路の凍結が多くなります。



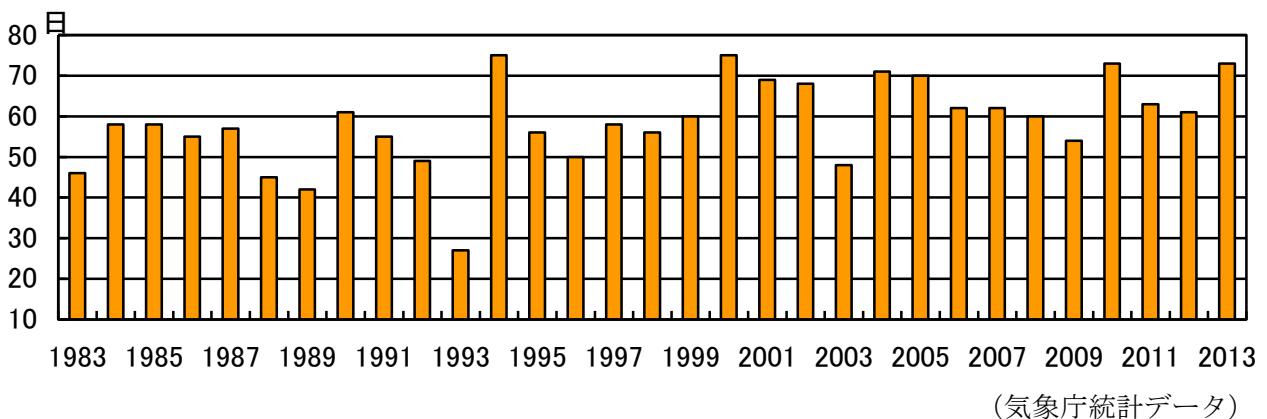
1983年から2012年までの30年間のデータを比較すると、年平均気温は上がったり下がったりをくり返しながらも徐々に気温が上昇傾向にあるのがわかります。特に1993年以降、年平均気温が14℃を下回ることはありません。

また、最高気温30℃以上の「真夏日」日数、最低気温0℃未満の日数においては、直近の10年間と1983～1992年の10年間とを比較してみても、温暖化傾向にあることがわかります。

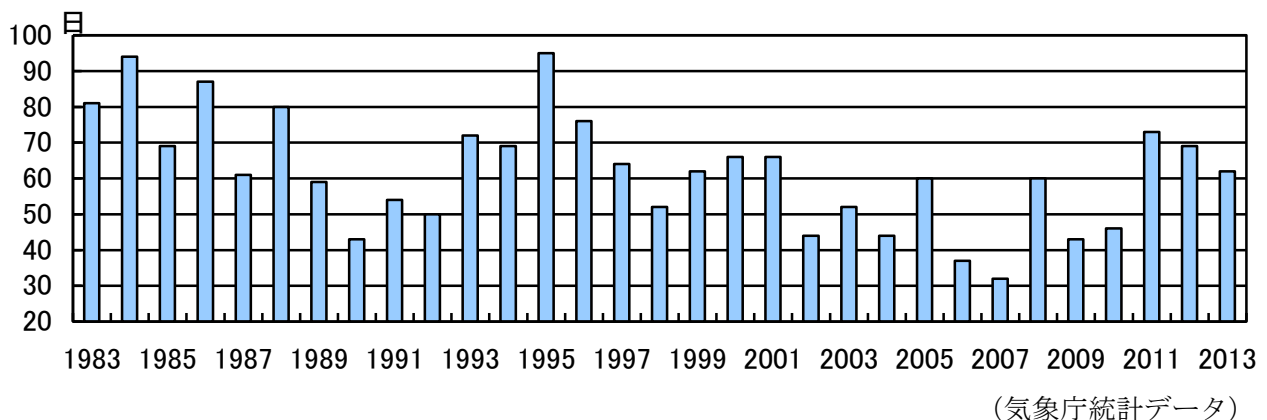
### 【年平均気温の推移】



### 【最高気温30℃以上の日数】



### 【最低気温0℃未満の日数】



※観測点は、2002年以前は旧鳳来町長篠地内にありました。現在は、新城市富沢地内に移設されています。

## 2 地形・地質

段戸高原を源とする豊川（寒狭川）と宇連ダムを起点とする宇連川が鳳来寺山の東西を挟むように流れています。

この2河川が、長篠の戦いの中心となった長篠城址の下で合流し、豊川本流となり三河湾へと注がれます。

この豊川に沿って日本最長の断層帯「中央構造線」が縦走り、地形と地質を豊川本流右岸の内帯と左岸の外帯に分けています。内帯側の地質は、花崗岩類・領家変成岩類と堆積岩、火山岩類が分布しています。

外帯の地質は、主に緑色片岩や黒色片岩からなる三波川変成岩類で構成されています。平野部は洪積層・沖積層となっています。



作手地区 長ノ山湿原

作手地区は床土が水をにがさない粘土であること、平らな地形で湧き水があり、夏の気温が低く雨の多い気候であることなどの条件から湿原や湿地が点在しています。作手の湿原は、愛知県で唯一、土の酸素が少なく酸性が強いため植物が腐らずに炭のようになるでい炭のある湿原であることから「日本の重要湿地500」に選定されています。

## 3 植生

本市の行政面積は、83.5%が森林で、尾根沿いを中心に在来の常緑広葉樹林が点在しているものの、森林面積の80%以上はスギやヒノキの人工林となっています。

新城・鳳来地域は、暖地系の植物の多い地域で、特に鳳来寺山は、ホソバシャクナゲの自生地として全国的にも有名です。また、ツガ群落の他、亜高木のヤブツバキ、アラカシ、ツクバネガシや低木層のアオキなどが常緑広葉樹林の群落をつくり、シダ植物以上の高等植物が800余种確認されています。天然のよい植物見本園として、国の名勝および天然記念物に指定されています。

豊川沿いにおいても、比較的自然植生が多く種類も豊富です。特に桜淵公園の蜂の巣岩付近は、石灰岩を含む地質で構成されており、クモノスシダ、ツルデンダなど石灰岩特有の植物が見られます。

作手湿原には、全国的に見ても絶滅の危険性のあるサギソウ、トキソウ、サワラン、ヤチスギランや県内でもこの地域でしか見られないサギスゲ、ミタケスゲ、ヌマクロボスゲ、ツルカミカワスゲ、ミヤマナルコスゲなどの貴重なものがみられます。

#### 4 動物

本市は、豊川・矢作川にそそぐ支流小河川とその周辺の農地および外縁部の山地などほぼ市域全体が豊かな自然環境に恵まれており、多くの動物が生息しています。

種 類	解 説
哺乳類	市内全域の山地を中心にニホンザルをはじめイノシシ、タヌキ、ニホンリス、ノウサギなどの生息が見られます。また、本宮山を中心とする地域にホンシュウシカ（ニホンジカ）が生息し、分布を広げています。山地と一部の社寺林にはムササビの生息が確認されています。
鳥類	豊川やそれに注ぐ小河川を中心に市域外縁部の山地まで全域にわたり多くの野鳥が生息しています。豊川には、オシドリや「水辺の宝石」ともいわれるカワセミが生息し、桜淵公園だけでも年間を通して約80種の野鳥が確認されています。また、鳳来寺山には「仏法僧(ブツボウソウ)」と聞こえる鳴き声で有名なコノハズクの生息が確認されています。
魚類	天然記念物ネコギギをはじめ、ウナギ、アユ、オイカワ、ウグイ、コイ、ホトケドジョウ、メダカなどの生息が確認されています。しかし、市内の沼や池には外来種ブラックバスやブルーギルなどが繁殖していることから在来種の生息が危ぶまれています。
昆虫類	本市には、様々な植生があることから、多くの種類が確認されています。1983年（昭和58年）3月に市の天然記念物に指定されているヒメハルゼミをはじめ、多くのセミ類、トンボ類、チョウ類、また、カブトムシ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタなどの甲虫類やタガメ、ヒメボタルなどが生息するとされています。しかし、スギやヒノキの植林地が広がり、シイやカシの林に生息するといわれるヒメハルゼミの確認が難しくなっています。その他の昆虫類も開発や農薬などの影響を受けて確認事例が減少傾向にあります。また、外来種による日本固有の生態系への影響が懸念されています。
爬虫類	シマヘビ、ジムグリ、タカチホヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、マムシなどのヘビ類やニホンイシガメ、ニホンカナヘビ、ニホントカゲが確認されています。最近では、ペットとして飼われていた外来種が自然に放されることにより、在来種の生態系への影響が懸念されています。
両生類	山地の樹上で昆虫やクモ類などを食べ、単独で生活する日本固有のモリアオガエルやヒキガエル、アマガエル、トノサマガエルなどのカエル類やイモリが確認されています。モリアオガエルは、県内でも特にこの地域での生息が確認できます。



## 1 保全と創出

### ●豊かな自然の保全

【生命の源としての自然の確保】、【生物生息空間の保全・維持】

### ●身近な自然の創出

【原風景の回復】

《四谷の千枚田の特徴》

千枚田のある四谷地区は鞍掛山（標高883メートル）の南西斜面に広がる山間集落で、石積みの棚田は、標高220メートル付近から鞍掛山頂に向かって標高420メートル付近まで広がっており、その標高差は約200メートルにもなります。また、棚田は、鞍掛山を水源に持ち、四谷の千枚田を囲むように山あいには大代、大林、身平橋、田の口の4集落で構成されています。

鞍掛山の中腹からこんこんと湧き出てくる水は、毎秒20リットルで<sup>か</sup>潤れることも無く、昔から大雨が降っても濁らず、生活排水の混入もなく、石積み水路と透有感のある清水が三筋の沢として流れ、棚田を潤しています。

傾斜地山林を苦勞して開墾し、構築された石積みは、鞍掛山の転石や山崩れで流出してきた石だけを積んだ棚田であり、また石積みの土地に家屋も建築しており、独特の石垣風景を呈しています。これらの自然石による石積み棚田、鞍掛山、豊富な水が正面から一望できる素晴らしい光景は訪れる人の心を和ませています。



《千枚田の魅力・能力》

山の傾斜地に作られた千枚田は、そのあぜや石垣によって大雨の際の土壌浸食を防ぎ、またその保水機能によって調整池の役割を果たし、水が一気に流水するのを抑える災害防止機能を備えています。

山の斜面や丘陵地に段々と折り重なり、その曲線美を見せる四季折々の棚田の風景の美しさは、はるか太古の昔から日本の原風景として日本人の心に潤いとやすらぎを与えて来ました。

「四谷の千枚田」は大雨でも濁らない湧き水を持ち、おいしい米（棚田米）を生み、四季折々に多彩な表情を見せてくれて奥深い魅力を秘めています。常に水をたたえて豊かな緑を育む田は、様々な動植物にも生息空間を提供しています。「四谷の千枚田」ではモリアオガエルやヤマアカガエルの卵も見られます。

《鞍掛山麓千枚田保存会》

千枚田の保存活動を通じて、農業労働力の確保と農業振興および地域の活性化を図るため組織されたグループです。

活動内容としては耕作放棄地の解消に取り組むとともに「田植え体験」「稲刈り体験」「生き物観察会」など都市と農村の交流も図っています。

この他にも水路、里山の環境整備を行い、美化活動にも取り組んでいます。

◇鞍掛山麓千枚田保存会(平成25年度活動実績)

実施日	活動内容
4月3日(水)	横浜ゴム(株) 新城工場新入社員研修によるふれあい広場の整備等：新入社員を含む30人参加
5月11日(土)	J A東愛知こども農学校の田植え：65人参加
5月12日(日)	棚田支援グループ「棚田の楽耕」交流活動による田植え
5月18日(土)	新城高校農業クラブの田植え：40人参加
5月25日(土)	方瀬集落中心に沿道等の環境整備活動
6月1日(土)	第7回お田植え感謝祭「みんなで灯そう千枚田」：大勢の皆さんで千枚田に火が灯され、美しい空間が創られた(連谷お助け隊主催)
6月2日(日)	鳳来寺山自然科学博物館主催で、千枚田の生物観察会を開催：40人参加
8月21日(水)	作業道補修
9月22日(日)	新城高校農業クラブの稲刈り
11月8日(金) 9日(土)	第19回全国棚田(千枚田)サミット(和歌山県有田川町)
12月8日(日)	収穫感謝祭「餅つき大会」の開催
2月22日(土)	「ぼっとり」「四阿」の屋根の葺き替え




鳳来中部小学校の校外環境学習



新城高等学校農業クラブの育農学習

◇豊橋調理製菓専門学校による千枚田活動

実施日	活動内容	
5月9日(木)	生息環境調査、田植え：47人参加	
6月6日(木)	生息環境調査、田の草取り、梅の収穫：42人参加	
9月19日(木)	稲刈り：45人参加	
10月10日(木)	脱穀、成果報告会：47人参加	



《地域の活動》

「連谷お助け隊」

地区内の若者有志が中心となり、平成17年に開催された「全国棚田(千枚田)サミット」の支援組織として発足し、その後、千枚田保存会と協力しながら、環境景観整備、耕作支援、地域活性化活動、都市農村交流活動など地域への幅広い事業をサポートしています。

「連谷小学校」

地元の連谷小学校は複式学級の児童数5名の小さな学校で、約1kmほど先に有名な四谷の千枚田があります。そこで3枚の田を地元の方からお借りし、田起こしから田植え、稲刈り、脱穀、もみすり等の作業を進め、11月には地域の方々と一緒になって餅つきをし、収穫までの苦労と喜びを体験しています。平成8年度に始まった活動で、今では「千枚田で生きる」というテーマのもと、総合的な学習に位置付け、食育にも関連した学習として全校で取り組んでいます。

実施日	活動内容	
4月26日(金)	田起こし	
5月1日(水)	代かき	
5月15日(水)	田植え	
5月25日(土)	親子で「かかし」作り	
6～8月に 各月1回ずつ	田の草取り	
9月3日(火)	「かかし」立て	
9月25日(水)	稲刈り、はざかけ	
10月9日(水)	脱穀	
10月23日(水)	もみすり	
11月16日(土)	「ふれあい教室」で餅つき	
12月4日(水)	田起こし	

「収穫量増加を願って  
みんなで脱穀」

## 【自然に配慮したまちなみ景観・公園づくり】



《新町地区まちづくり協議会》

平成25年度事業の概要

### ① ひだまりパーク・街路樹「陽光」等の管理

ひだまりパークの花壇の手入れと道路に設置したフラワーポットの植え替えを定期的に行うとともに街路樹「陽光」を点検し、害虫の発生等の異常をいち早く発見するように努めました。

また、透水性舗装が保たれるよう定期的に道路の清掃をしました。

さらに、腐食が進み、防腐効果も限界となり、危険性の生じたひだまりパークのパーゴラを地域活動交付金により、材料を購入、建替えを行いました。

### ② まちなみ景観向上のための活動

花のまちづくりを目指し、ひだまりパーク、食彩園「やどかり」や新桜通りへ季節の花を植えるなど、花による季節感を創作しました。

また、都市緑化推進事業補助金により、地域を美しく飾ってもらうきっかけづくりとして指導者の育成を含めつつ「ガーデニング講習会」を開催し、その完成した鉢植えを東新町駅に飾り、鮮やかな花と緑を演出しました。



さらに、「新桜通りふえすた」プレイベントとして、陽光桜の開花時期に「花灯路」を設置し、夜桜を演出しました。



③ まちづくり憲章の周知

商工会主催の新桜通り夜店に参加し、まちづくり憲章が書かれた「エコうちわ」を来場者に配り、周知を図りました。



④ 協議会活動の輪を広げる

飛騨古川の町並みを視察に行きました。飛騨古川は、江戸時代に天領となり、伝統のある城下町には、出格子の商家や白壁の土蔵が続き、鯉の泳ぐ清らかな瀬戸川のせせらぎが聞こえる町並みで、市街地中心部には多くの古い町並みが残り、飛騨の匠の技と心意気が息づいています。

また、東新町公民館まつりに参加し、協議会名物の「やどかりうどん」を振る舞い、地域の方々と交流を深めました。



⑤ その他

第23回「全国花のまちづくりコンクール」受賞



平成25年度の活動状況

日 時		内 容
4月9日	19:00～	例会 総会について
4月12日	18:30～	総会
5月14日	19:00～	例会 25年度事業について
6月11日	19:00～	例会 夜店参加について
6月16日	9:00～	作業 新桜通りの花の植え替え・陽光桜の剪定
6月23日	9:00～	作業 ひだまりパークの七夕の飾りつけ

日 時		内 容
7月16日	19:30～	例会 夜店参加・視察について
7月27日	18:00～	新桜通り夜店参加 「まちづくりエコうちわ」を無料配布
8月27日	19:30	例会 視察について
9月10日	19:30～	例会 視察・公民館まつりについて
9月15日	7:00～	視察 岐阜県飛騨古川
10月29日	19:00～	例会 東新町公民館まつりについて
10月31日	-	第23回全国花のまちづくりコンクール団体部門に入選
11月10日	9:00～	例会(作業) 新桜通りの花の植え替え
11月17日	10:00～	東新町公民館まつりに参加「やどかりうどん」の振る舞い
12月3日	19:00～	例会 新桜通りふえすたについて
12月15日	9:00～	作業 ひだまりパークにパーゴラ建替え、門松設置 桜の苗の植樹
1月21日	19:00～	例会 新桜通りふえすたについて ガーデニング講習会について
2月11日	19:00～	例会 新桜通りふえすたについて ガーデニング講習会について
2月16日	10:00～	ガーデニング講習会開催
3月4日	19:00～	例会 新桜通りふえすた・総会について
3月23日	13:00～	作業 「花灯路(はなとうろ)」設置
3月23日 ～29日	19:00～ 21:00	「新桜通りふえすた」イベント「花灯路(はなとうろ)」 開催
3月29日	9:00～	作業 「新桜通りふえすた」準備
3月31日	11:00～	悪天候のため歩行者天国「新桜通りふえすた」中止



## 2 ふれあい

### ●自然に親しむ

#### 【自然に親しむ心の醸成】

子どもの頃から日常的に自然に親しみ、ふれあう機会をつくることで、自然を大切にす  
る心を醸成します。

#### 《園児が鮎とアマゴの稚魚放流》

平成25年5月21日(火)、桜淵公園河川敷  
で、新城こども園の4～5歳児75人が鮎と  
アマゴの稚魚を放流しました。

園児が放流した鮎の稚魚は、豊川を元気  
に遡上<sup>そじょう</sup>していきました。

川の豊かさや楽しさを知ってもらおう  
と、豊川上漁協と市観光協会が、毎年鮎釣  
り解禁日を控えた時期に、地元の園児を招  
待して行っています。

園児たちは素足で浅瀬に入ると、バケツ  
の中の魚を川へ放し、魚が元気に泳ぎだす姿に大きな歓声をあげていました。



#### 《親子せせらぎエリア》

市最大の特徴である自然環境は、住民の居住空間そのものであり、これを市民共有の財  
産として、良好な状態で将来に引き継いでいかななくてはなりません。

市教育委員会では、子どもの頃から、本市のすばらしい自然にふれて、ふるさとのよさを  
体感できるよう、「親子せせらぎエリア」を地元の協力のもとに設けました。



開設期間：平成25年8月1日(木)  
～8月15日(木)  
開設時間：午前10時～午後4時  
開設日数：15日間(内、中止1日)  
開設場所：作手・善夫地区 菅沼川  
利用者数：大人 557人  
子ども 573人  
合計 1130人